

QIR20周年インタビュー 「リポジトリ」は無料の オープンアクセスツール

後藤 浩二

九州大学大学院工学研究院 教授



先生の研究内容について詳しく教えてください。

船舶や海洋構造物、鉄道、航空機の一部など、溶接技術によって建造された大型構造物を主な研究対象としています。具体的には、これらの構造物の溶接部が破損する主な原因である「金属疲労」に着目し、どのような条件で発生・進展するのか、またその抑制方法について研究を行っています。さらに、溶接技術を応用した大型金属積層物の建造や、それに関する基礎的・技術的研究にも取り組んでいます。

先生からは、2022年に多くの登録依頼をいただきました。リポジトリに登録したきっかけがあったのでしょうか？

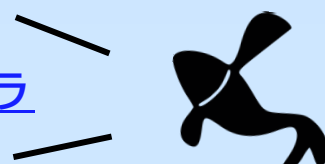
2022年に増えているのは、リポジトリ登録の呼びかけがあったからです。その頃から、研究成果のリポジトリ登録やオープンアクセス(Open Access、以下OA)推進の方針がより強く打ち出されるようになり、登録の機運が高まりました。また当時強く感じていたのは、論文をOAにするのに高額な費用を取られるということでした。いわゆるGold OAですね。

QIRに登録する主なメリットは何ですか？

リポジトリ登録のメリットは、Green OAにできる点ですね。私はGold OAにする必要性を全く感じていません。「Gold OA」という呼び方の影響もあり、そちらの方が特別で価値が高いという印象を持たれがちですが、Green OAは費用がかからないという大きな利点があります。さらに、国による学術論文等の即時オープンアクセス義務化の要件にも対応可能ですよね。

——はい、国の方針としてもGreen OAを推奨しています。

GreenOA・GoldOAの詳しい説明は[コチラ](#)



九州大学や図書館の皆さんは、リポジトリではお金をかけずにOAにできることを、もっと積極的にアピールすればよいと思います。私の勝手な想像ですが、GoldとGreenの違いについて、恐らく教員の8割以上は分かっているのではないかと。

また、「Green OA」と「リポジトリ」が別々に聞こえてくるので、概念的に結びついていないのかもしれませんが。

——そこを分かってもらえれば、もっとリポジトリを使っただけのかもしれないですね。

先生は、よくQ-RADeRSからリポジトリ登録依頼されていますよね。

忘れてしまわないうちに、とにかく片っ端からQ-RADeRSに登録し、同時にリポジトリ登録もしています。

印象に残っていることとしては、Q-RADeRSの話になりますが、同一の原稿であっても、区分ごとに重複して登録を求められる場面があり、負担を感じることがあります。リポジトリのファイルを一つだけアップロードすれば、両方に連動するというシステムになっていればよいですね。あとは統計情報など、一緒に設計していただくほうがよいかなと感じることはあります。

——いつもQ-RADeRSでリポジトリ登録依頼している先生ならではの視点ですね。もっとうまく連携させていきたいと思います。

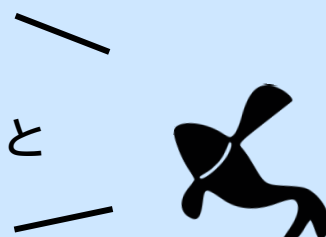
今後のリポジトリに期待することは何ですか。

使い勝手が更に向上することを期待します。Q-RADeRS等の他システムとの連携強化もですが、一人でも共著者が登録していたら自分は登録しないでよくなるとか。

——共著者の登録については、2025年10月にリポジトリ登録のシステムが変わり、反映されるようになりました。

あとは論文だけではなく、会議録などといった散逸しやすく入手困難な資料を保存する役割を果たしている点も重要だと思います。日常的に登録・利用されるインフラ(基盤)となることを望んでいます。リポジトリを使って当たり前になるような広報活動をしてほしいですね。

「Q-RADeRS」は、九州大学の
教員活動進捗・報告システムです。
登録過程で本文ファイルをアップロードすると
QIRへの登録依頼も同時に行えます！



最後に、20周年を迎えたQIRにお祝いメッセージをお願いします。

利用頻度や登録頻度をあげることがやはり重要だと思います。リポジトリは「所蔵庫」というイメージを持たれていますよね？そうではなくて、OAの場だということを様々なチャンネルを通じて周知するのがいいかなと思います。リポジトリは無料でできるOAのツールです。国が要求しているOAの要件を誰でも満たすことができることも周知してほしい点ですね。

——普段利用されている先生からそう言っていただけると、説得力がありますね。本日はお忙しいところありがとうございました。



(インタビュー後に後藤先生、リポジトリ系の平野さんと記念撮影)

QIR 20th Shall We Open?
Kyushu University Institutional Repository 20th Anniversary in 2026

インタビュー実施 2026/4/8

